

神川小3・4年生 総合的な学習の時間

お茶摘み・手もみ体験学習

神川小学校3・4年生11名が、今隈幸洋さんの茶畑を訪れ、茶摘み体験を行いました。児童たちは、「一芯二葉」の摘み方を教えてもらい、約40分かけて茶葉を収穫。その後、茶工場に移動し、茶葉を機械で炒った後、ざるの上で手もみしました。3年生の葛蒲^{とうき}騰己さんは「おいしくなれと想いを込めて茶もみした。」と話しました。茶葉は乾燥後、児童にプレゼントされるそうです。



「♪夏も近づく八十八夜～」と、茶摘みの歌を口ずさみながら収穫する子どもたち。

錦江町愛を持った子どもたちを育ていきたい 鎌田 広文 教育長 就任

令和6年6月1日付で鎌田広文教育長が就任されました。「子どもたちの心の中に『ふるさと』があってほしい。錦江町で教育を受けたことに誇りを持ち、錦江町を愛してほしい。その助けとなるような義務教育のお手伝いができれば。小学校統合については、子どもたちや地域の方々の考えや想いに寄り添っていきたい。」と決意を述べられました。



都城市出身の60歳。鹿児島大学卒業後、小学校教員として県内小学校へ勤務。今年3月に霧島市立宮内小学校長を退職。平成19年度から22年度まで錦江町教育委員会に参事兼指導主事として勤務されており、「錦江町のことは大好き」と話されました。

輪島市内は、現在も通行できない道路や、余震によって新たに倒壊した建物もあり、まだまだ復興には程遠い印象を受けたそうです。



本町職員2名が石川県輪島市へ 被災地支援 報告会

能登半島地震の被災地支援のため、石川県輪島市に派遣された本町職員田尻健太主事と榎田朔主事補が報告会を行いました。2名はそれぞれ9日間被災地に滞在し、他自治体から派遣された職員とともに、住宅の被害認定調査（2次調査）の業務にあたりました。報告会では、被災地の被害状況や避難所の様子等が説明され、地震への対策の重要性を職員一同再認識しました。

保護者は「見守ることが大事・すぐに答えを教えない・失敗こそチャンス」など、子育てをする上での大切なヒントを学びました。



「答えのない課題を追求していく力」を育てる 親子 STEAM 体験教室

未来づくり課が（一社）STEAM JAPANから講師を招き、田代こども園で親子STEAM体験教室を行いました。今回は「エッグドロップチャレンジ」という課題に挑戦。うずらの卵を上から落としても割れないようにするための方法を考え、入れ物や乗り物を作成しました。子どもたちは紙とテープから、様々なアイデアを生み出していました。ドキドキワクワクいっぱいの学びの時間となりました。

水産試験場で育てられたヒラメの稚魚。体長およそ5～8cm。児童たちは、バケツに移した稚魚を棧橋まで丁寧に運び、海へ放流しました。



町内の小学3年生 郷土めぐり ヒラメの放流体験

6月6日、町内の6小学校の3年生39名が社会科の学習で「町内郷土めぐり」を行いました。大根占漁港を訪れた児童たちは、ヒラメの稚魚およそ500匹を棧橋から海へ放流しました。町内郷土めぐりで放流体験を行うのは今回が初めて。参加した宿利原小学校の榎丸^{ふんまる}留さんは「元気に大きく育ってほしい。」と笑顔で話しました。

ふるさと納税返礼品 提供事業者に向け 事業者説明会を開催

6月13日、ふるさと納税の返礼品を提供いただいている事業者に向けた説明会が行われました。総務省のルールの厳格化に伴う価格の見直しや、地場産品基準の確認などについて、未来づくり課職員が説明。参加した原製菓代表取締役の原純一郎さんは「お客様のことを第一に考えていきたい。ふるさと納税を知らないお客様にも、ふるさと納税でも注文できることを伝えている。」と話されました。



原製菓さんの「ひとくちげたんは」は昨年のかごしま国体の際に、高円宮妃久子様がお召し上がりになられたそうです。

毎週水曜日に開催している「ゆうゆうカフェ」。第2・4水曜日は協力事業所に出向き、作業のお手伝いを行っています。



事業所での作業 いきいきとした姿輝く！ 社会とつながる「働く」認知症カフェ

「ゆうゆうカフェ」の利用者が新鮮倶楽部おおやまさんを訪れ、商品の袋詰めや陳列のお手伝いを行いました。報酬は好きな飲み物1本。これは、利用者自らが望まれた報酬だそうです。また、おおやまさんからのご厚意で、2回作業に来た方へ商品券が贈られました。飲み物と商品券を受け取った段ヤスエさんは「嬉しい！手伝いができて楽しかった。」と話されました。